

平成27年10月 データから見た業界の動き

■ 概 況

10月の景況は、秋の行楽シーズンを迎えアジア地域を中心に長期休暇が取得しやすい日が重なったこともあり、訪日旅行客によるインバウンド消費が拡大した。

また、天候に恵まれたこともあり野菜や果物を中心に活発な荷動きやガソリン、軽油価格の低下により企業のコスト負担を軽減する要因となった。

しかし、製造業を中心に中国経済の急激な減速による受注の減少や円安による原材料高、人手不足によるコストの増加が続き、仕入・製造コストを押し上げるも販売価格への転嫁が進まず収益が圧迫される企業が増加しているとの報告も多く寄せられた。

今後は、中国経済の影響に加えコスト上昇分を価格競争により転嫁できないことから、経営に行き詰まる中小・小規模事業者が増加することが懸念される。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係が持ち直し、生食材等が順調のため全体の売上は前年同月比108%。
食料品（洋菓子製造）	量販ギフト商品の切替により落ち込みもあったが、カタログギフト、輸出が好調のため、全体の売上は前年同月比104%。
食料品（菓子）	10月は大手取引先の注文が減少したため、前年対比で売上減少。
繊維・同製品（アパレル）	自社ブランドの製造販売は好調。
印 刷	印刷需要が減少している。
窯業・土石（砂利）	公共工事の発注状況（場所）により組合員の景況感格差が拡大している。
窯業・土石（山砕石）	8月より需要は落ち込んでいる。また、諸資材の高騰により利益率は下降気味であるため設備投資ができない。
鉄鋼・金属①	業界全体的に、売上は下降気味で利益確保ができなくなってきている。
鉄鋼・金属②	業況が悪化傾向にある。
一般機器	中国経済の鈍化に加え公共工事の縮小や輸出用工作機器の受注減少、国内自動車生産の低迷が続き年内は厳しい状況にある。
電気機器①	電機、鉄鋼、機械など各業界において物量の変動が激しく納期やコスト面で厳しい状況にある。短納期、低コストでの受注のため、原材料、人件費が割高となり受注量が増加しても採算が難しい。
電気機器②	中国経済の鈍化により製造業の景気は冷え込んできている。

宝飾(研磨)	低調。
宝飾(貴金属)	クリスマス、年末商戦に向けては、数年前と比べると幾分忙しい気がしている。

● 非製造業

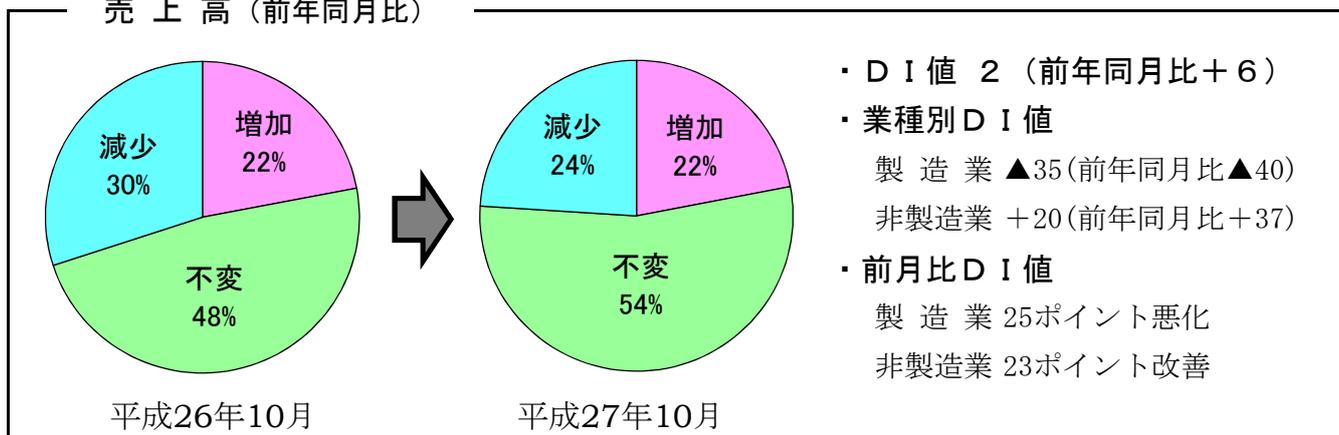
卸売(紙製品)	中国経済の減速による影響はないが、仕入競争は依然として激化している。
卸売(ジュエリー)	クリスマス、年末商戦に向けて繁忙期になるはずだが、業界全体では低迷している。
小売(青果)	10月は秋野菜、果実とも天候に恵まれ活発な荷動きとなり売上高も前月対比16%上昇した。
小売(食肉)	前月に比べ国内産豚肉の価格は下降気味であるが、輸入食肉と国内産牛肉が高値安定しているため、販売価格に転嫁しきれず収益を圧迫している。
小売(電機製品)	業界全体では県内に大型店が新規に開店したため、前年同月比130%。地域店も秋の販促効果もあり売上は前年同月比112%。
小売(石油)	原油価格は下降傾向にある。10月に入り県外資本の大手業者がガソリンスタンドを開店したため、価格競争が激化
商店街①	組合主催の第二土曜日と岡島百貨店の北海道物産展が重なったため予想以上の賑わいになった。しかし、組合員のうち飲食業1店が閉店。
商店街②	行楽シーズンにより観光客は増加傾向にあるが、飲食、物販ともに低調。
不動産取引	秋になり物件の問い合わせや依頼が増加傾向だが、値引き交渉の依頼も多い。
宿泊業	外国人旅行者(中国)は好調。
美容業	諸物価の上昇等に伴い美容院への来店サイクルが長くなっている。そのため、低料金店舗は繁忙。
廃棄物処理(事業系)	中国経済の鈍化により鉄類のリサイクル市場が停滞してきている。また、チェーン店における廃棄物処理を本部が一括管理して事業系一般廃棄物処理料金の契約をするケースが増えてきているため、得意先からの更なる料金低下が懸念される。
警備業	受注量は好調に推移しているが、警備員が不足しているため受注に答えられないケースもある。
建設業(総合)	10月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数9%、請負金額11%ともに減少。10月までの累計では、件数10%、請負金額9%それぞれ減少。
建設業(鉄構)	県内は公共物件が少なく中弛み傾向。首都圏を中心とした県外物件により工場稼働率を維持している。慢性的な技術者・技能者不足が続いている。
設備工事(管設備)	アパート等の工事物件の増加により売上は増加したが、円安による原材料の値上げや人手不足による人件費の増加等の経費の上昇分を価格に転嫁できず体力を消耗させている。
運輸(バス)	売上は増加傾向にあるが、秋の行楽シーズンにもかかわらず仕事量は減少傾向。バス代が上昇しているためJRに切り替えて旅行する傾向にある。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

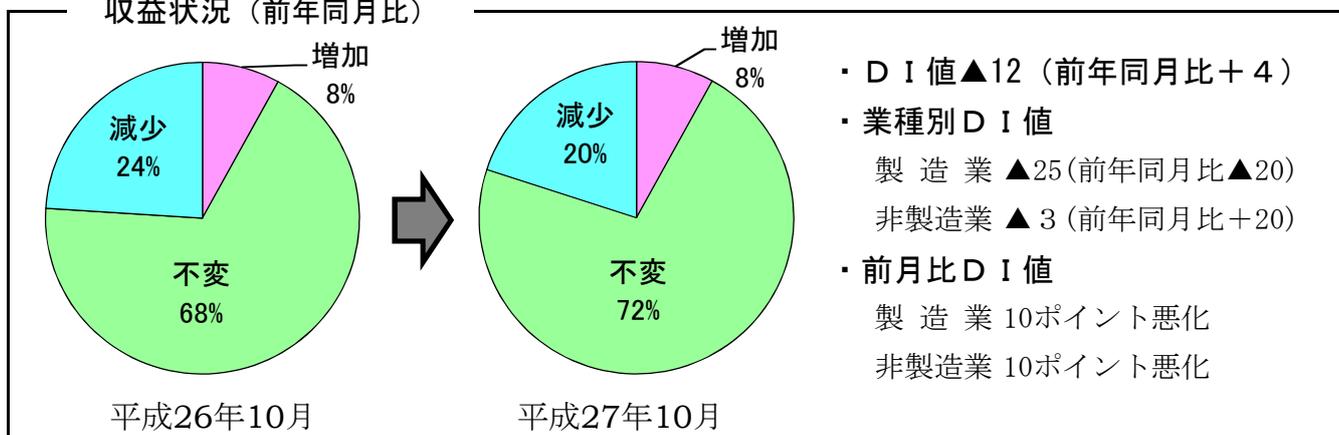
対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2014/10	2015/9	2015/10	2014/10	2015/9	2015/10	2014/10	2015/9	2015/10
売上高	5	-10	-35	-17	-3	20	-8	-6	-2
収益状況	-5	-15	-25	-23	7	-3	-16	-2	-12
景況感	-10	-20	-25	-30	-17	-17	-22	-18	-20

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

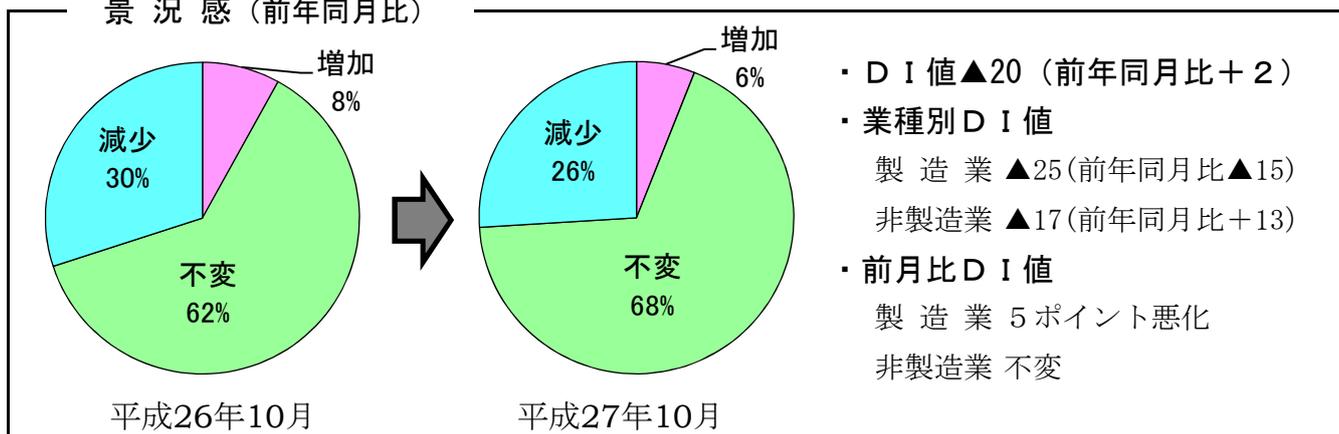
売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）



昨年対比グラフ

売上高

	増加	不変	減少
平成26年10月	22%	48%	30%
平成27年10月	22%	54%	24%

収益状況

増加	不変	減少
8%	68%	24%
8%	72%	20%

景況感

増加	不変	減少
8%	62%	30%
6%	68%	26%